

ネイチャーポジティブに向けた 「GREEN × EXPO 2027」の活用

2026.1.28 GREEN × EXPO協会



1

GREEN × EXPO 2027の 概要、背景、テーマ

- 正式略称 : GREEN×EXPO 2027
- 開催期間 : 2027年3月19日(金)～9月26日(日)
- 開催場所 : 神奈川県横浜市・旧上瀬谷通信施設
- 参加者数 : 1,500万人(有料来場者数：1,000万人以上)
- 出展国数 : 70の国・国際機関

公式ロゴマーク



公式マスコットキャラクター

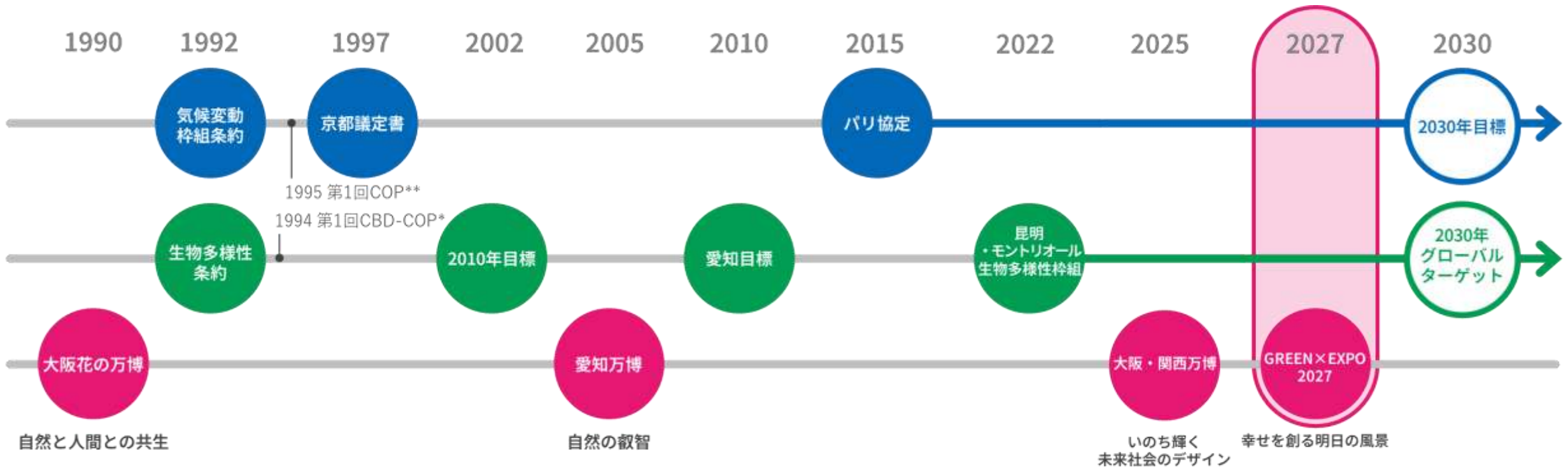


公式マスコットキャラクター
「トウクトウク」

1都3県では初の万博

地球規模の課題解決への貢献を目指して

- これまで日本で開催された博覧会は、国際的な議論の先駆けとして、地球規模の課題解決に向けたアクションを促してきた。現在、世界各国が、2030年の目標に向けて、取組を進めている。
- GREEN×EXPO 2027は、ターゲットイヤーである2030年に向けて、世界が直面する地球規模の課題解決へ挑戦する。



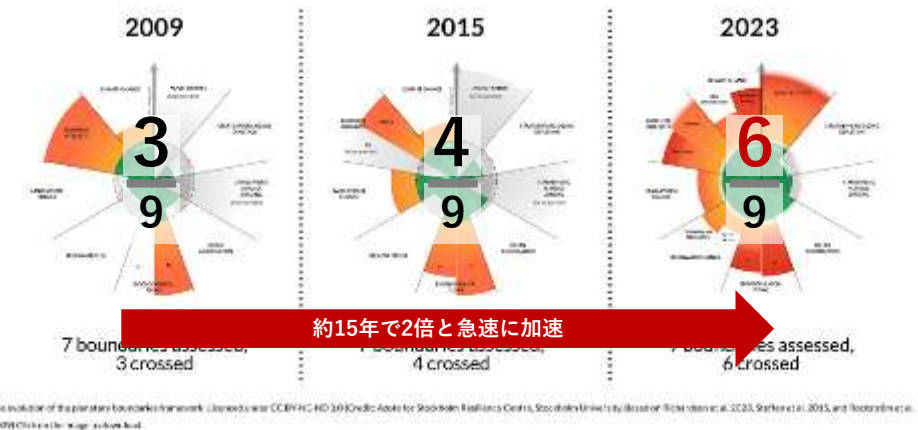
* 生物多様性条約締約国会議
** 気候変動枠組条約締約国会議

地球が直面する危機がもたらす私たちの暮らしへの影響 プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）



地球のSOS、それは、私たちの暮らしのSOS。
これからの暮らし、暮らす街、環境のあり方は大きな転換点。

地球温暖化、生物多様性の喪失、自然災害の増大、海洋の酸性化…など、
地球で、私たちが暮らしていくために必要な9つのカテゴリの内、
6つのカテゴリで既にその限界値を超えています。



The evolution of the planetary boundaries framework. Licensed under CC BY-NC-ND 3.0. Credits: Adapted for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University by the Division of Systems and Sustainability, 2023; Steffen et al., 2015, and Rockström et al., 2009. Click on the image to view a full slide.

Source : <https://www.stockholmresilience.org/research/planetary-boundaries.html>

【プラネタリー・バウンダリーがもたらす私たちの暮らしの危機（一例）】



幸せを創る明日の風景

Scenery of the Future for Happiness

GREEN
×
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN

GREEN×EXPO 2027のテーマは「幸せを創る明日の風景」です。

昨今、世界の多くの人々が、

プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）を意識し、
これからの私たちの幸せな生き方を模索し始めています。

そこで基本となるのは、

Nature-based Solutions = 自然を活用した解決策、という考え方。

私たちが生きる地球環境の基盤である自然、植物への理解を深め、

私たちもその一部として、

共に明日へと生きていくための方法論です。

自然・人・社会が「共に持続するための最適解」

を神奈川・横浜の面積約100haの開催地で描きます。

GREEN × EXPO 2027

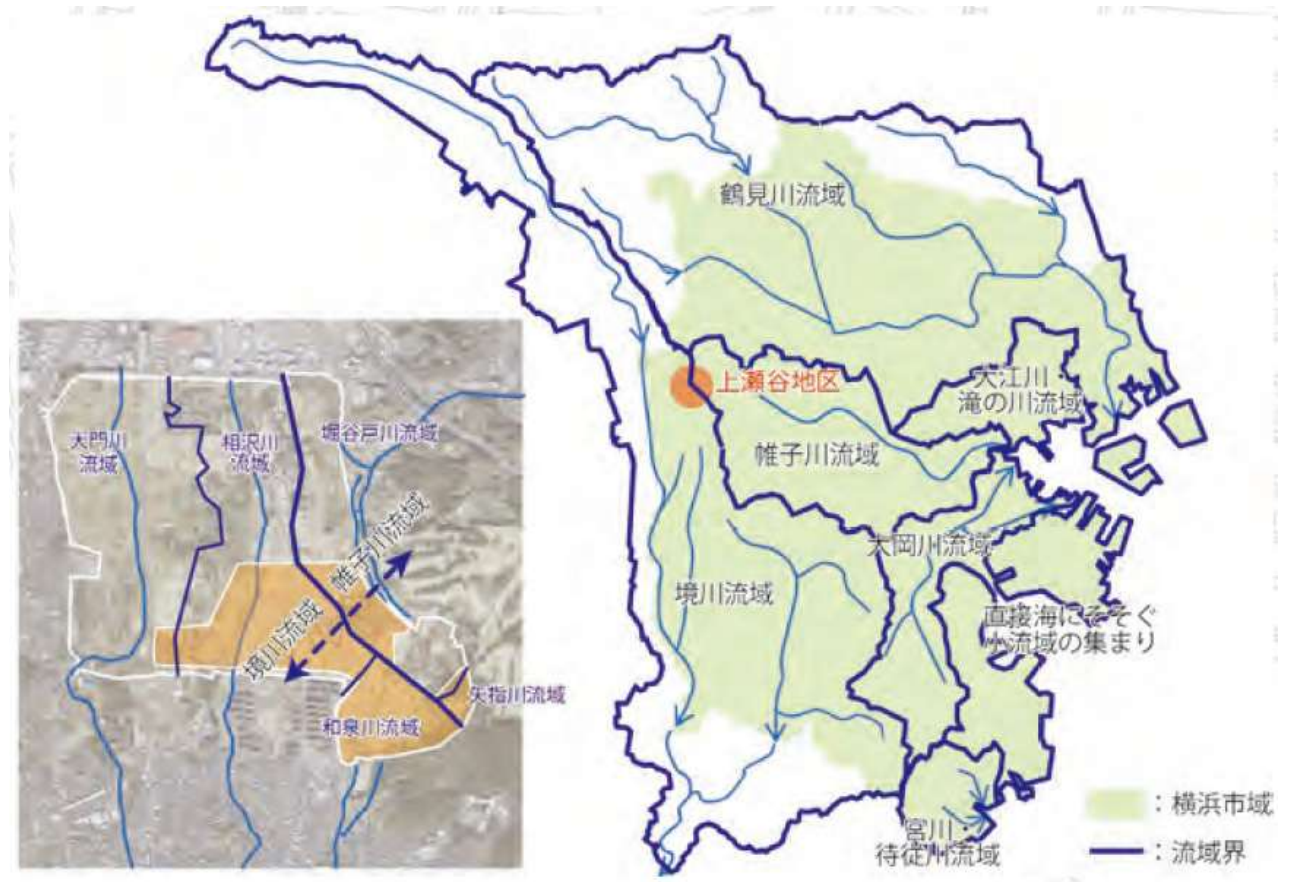


2

会場の環境特性

上瀬谷の土地特性

- かつての武蔵国と相模国の国境であり、水の流れが東京湾（帷子川流域）と相模湾（境川流域）へと分かれる尾根上にあたる

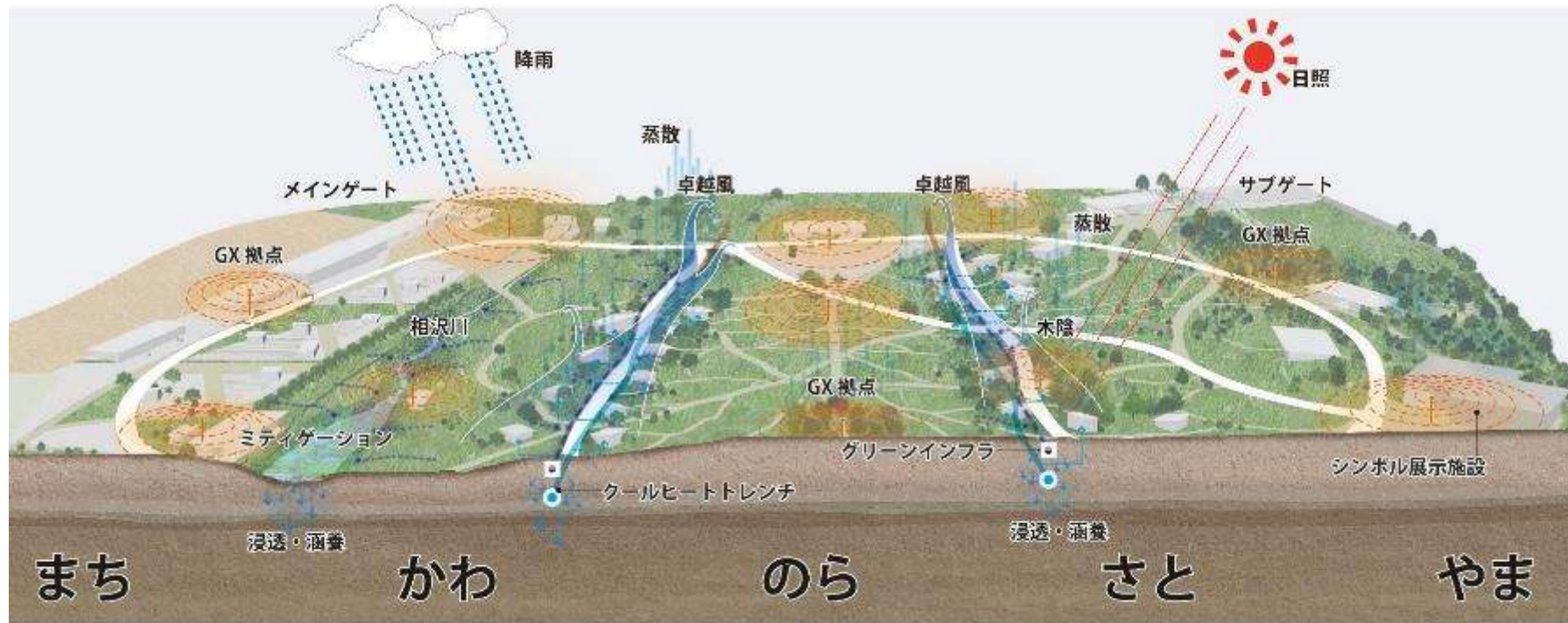




博覧会会場区域

グリーンインフラを基軸とした会場計画と自然の循環

- 本園芸博では、既存の自然環境や生物多様性を保全・活用し、**グリーンインフラを基軸とした会場計画を推進。**
- **ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現**に向け、本園芸博を通じてグリーンインフラ等の取組を発信するとともに、**自然界における資源の循環（自然の循環）を推進。**
- 同時に**本園芸博における物質循環を促進し、サステナビリティを推進することが重要。**



グリーンインフラの実装イメージ

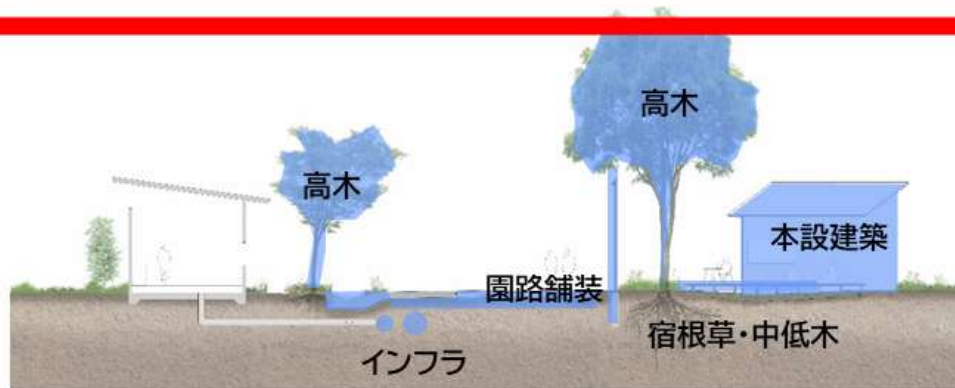
博覧会事業



＜博覧会事業＞ (仮設)
園路・広場
インフラ
植栽
建築、施設
演出修景
+ 出展者による工事

＜会場整備工事＞
・土木工事(舗装、構造物等)
・造園工事(展示園・修景植栽等)
・設備工事(2次インフラ)
・施設工事(休憩・管理施設等)
・建築工事(仮設建築物等)

都市公園事業



＜都市公園事業＞ (本設)
園路・広場
インフラ
植栽
建築、施設

・造成工事(2次造成)
・土木工事(舗装等)
・造園工事(植栽、ガーデン等)
・設備工事(各インフラ)
・施設工事(休憩・管理施設等)
・建築工事(本設建築) 等

土地区画整理事業

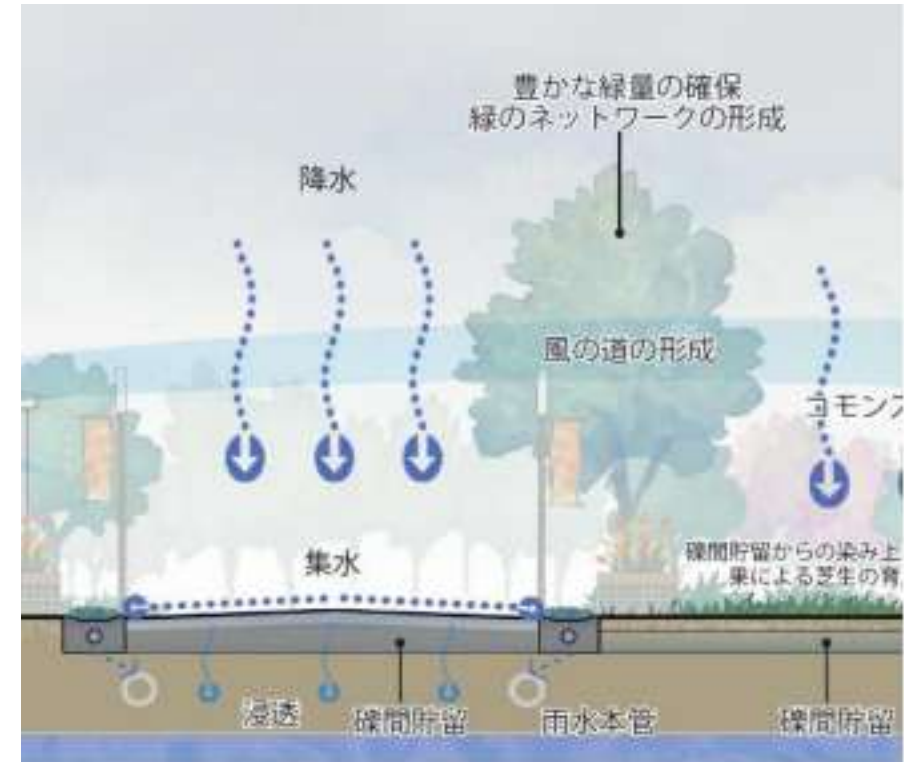


＜土地区画整理事業＞
周辺道路、造成
基幹インフラ

・埋蔵文化財調査
・施設撤去工事
・造成工事
・調整池工事
・基幹インフラ工事 等

<p>概要</p>	<p>■ グリーンインフラの導入</p>
<p>各種戦略等での 行動計画</p>	<p>■ 生物多様性の保全 (サステナ戦略参照)</p>
<p>調整状況・ 今後の動き</p>	<p>■ 自然環境ポテンシャルを取り入れた会場計画を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 取組の一部としてバイオスウェルを計画。バイオスウェルは「雨の道」とも呼ばれる洪水を防ぐ仕組みであり、自然災害の防止は間接的に生物多様性保全につながる

グリーンインフラの導入状況



バイオスウェル（雨の道）
場内に降った雨水が集まり、地中へゆっくりとしみ込んでいくことで、河川への負荷を軽減



相沢川

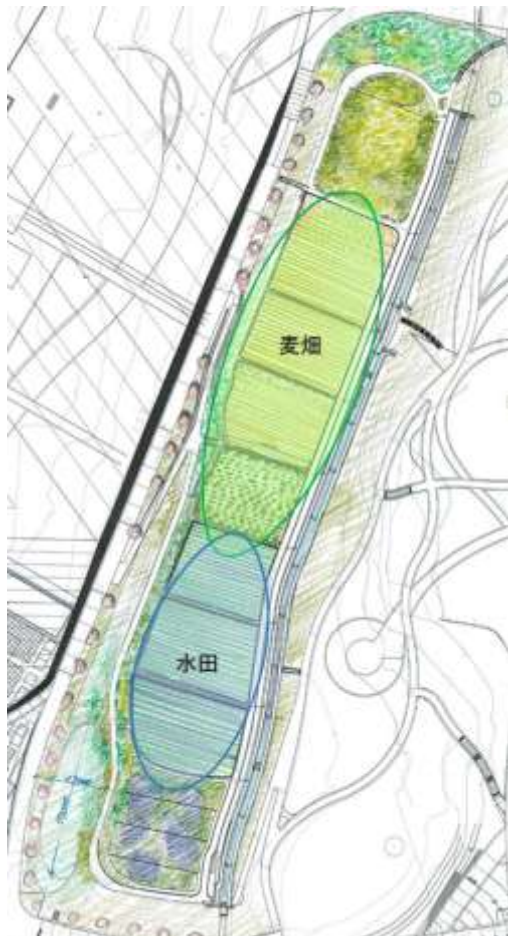
和泉川



- 緩やかな起伏のなかで、相沢川と和泉川が流れています。

相沢川周辺

- 都市におけるグリーンインフラとしての農の価値
- 一部の水田を継承するとともに、湿地、草地、河畔林等の整備により、これまで以上に多様な生物をはぐくむ環境を創出



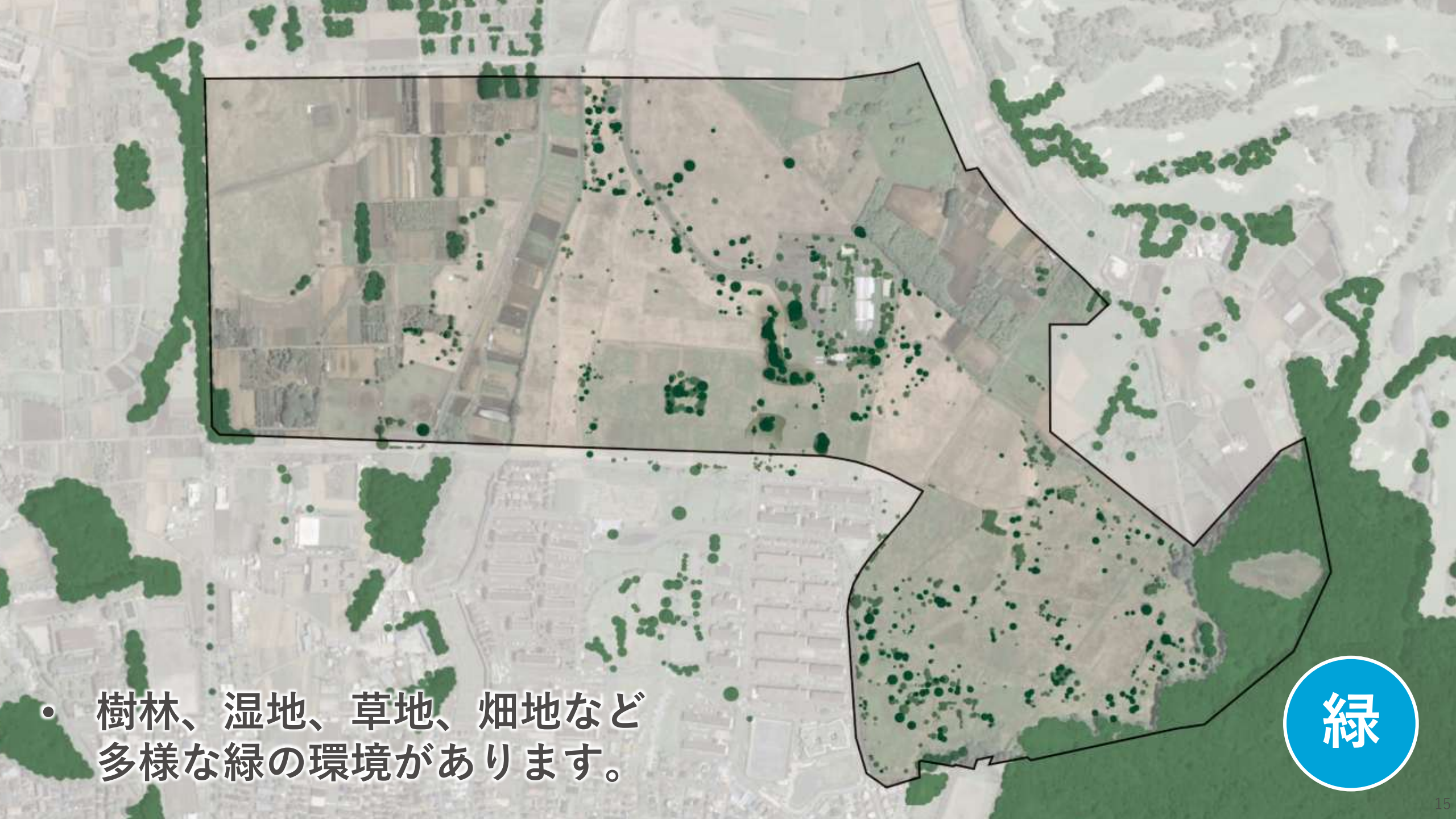
麦畑
期間中3月～6月は麦の生育と刈入、6月～9月は二毛作の畑として機能。

水田
4月～5月は一面のれんげ畑で来場者をもてなす。すき込みあとは水田とし稲作の育成を展開。刈入後、露アートの展開も検討

中間領域
期間中を通してアグリアートと景観を彩る緑肥植物の花畑として機能する。イベントのベースキャンプとしても。



※掲載画像はイメージです。また、施設配置・概要は今後変更となる可能性があります。



- 樹林、湿地、草地、畑地など多様な緑の環境があります。



SATOYAMA Village

- 市民が主役、市民の力でチャレンジしていく環共市民の活動フィールド
- 新規植栽と既存樹木により、市民の森から続く緑のネットワークを確保



※掲載画像はイメージです。また、施設配置・概要は今後変更となる可能性があります。

3

出展／展示構想

会場（計画図）



※建物の形状、配置を含め、本図は現時点でのイメージです

<p>概要</p>	<p>■ 環境・生態系テーマの展示</p>
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<p>■ 公式ウェブサイトでの情報発信 (C&E計画参照)</p>
<p>調整状況・今後の動き</p>	<p>■ 展示にて、生物多様性の損失や気候変動等への危機感、自然と人とのつながりを取り上げること検討中</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>テーマ館展示</u> 最新の映像技術と展示技術を用いて、植物の真の姿とともに、地球の限界に対する自然を活用した解決策を知る展示を検討中 ➢ <u>屋外展示</u> Village等のコンセプトに沿って、植物と人とのつながりを感じる植栽、体験プログラム、ワークショップ等を検討中 ➢ <u>園芸文化展示</u> 日本の誇る伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりとともに、多様な植物資源を未来に継承する必要性を知る展示を検討中

テーマ館や園芸文化展示の構想と進捗状況



テーマ館では、植物の真の姿を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを検討中



園芸文化展示では、伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを検討





政府出展

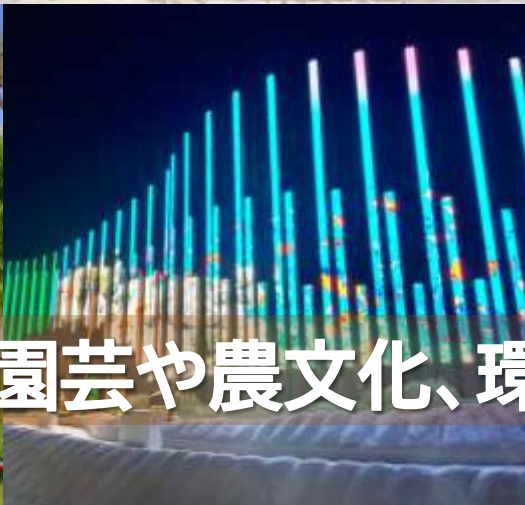


 テーマ営業出店

- M JAグループ
- N 株式会社 丸兆
- O 明治グループ
- P 山崎製パン 株式会社

 Village出展

- | | |
|------------------|-------------------|
| A 東急グループ | G 大和ハウスグループ |
| B 株式会社 KTグループ | H 東邦レオ 株式会社 |
| C NTT東日本 株式会社 | I 竹中グループ |
| D 株式会社 大林組 | J 住友林業 株式会社 |
| E 三菱国際園芸博覧会総合委員会 | K 相鉄ホールディングス 株式会社 |
| F 鹿島建設 株式会社 | L 清水建設 株式会社 |



世界各国が、園芸や農文化、環境とのかかわりを反映した庭園を出展予定

4

GREEN × EXPOへの参加

出展		その他の参加		
<p>花・緑出展 ※受付終了※</p> <p>園芸品種や庭園など 花き園芸や造園技術を表現</p>	<p>Village出展 ※受付終了※</p> <p>Villageコンセプトに沿って 各企業等のビジョンやテク ノロジーを表現</p>	<p>営業参加 ※受付終了※</p> <p>テーマ営業出店</p> <p>一般営業出店</p>	<p>催事参加</p>	<p>海外出展協力</p>

協賛		寄附金・人材支援ほか				
<p>プロジェクト協賛</p> <p>テーマ館プロジェクト</p> <p>機運醸成プロジェクト</p> <p>会場整備プロジェクト</p> <p>暑熱対策プロジェクト</p>		<p>一般協賛</p>	<p>寄附金</p>	<p>人材支援</p>	<p>来場参加 (入場券購入)</p>	<p>ライセンス 商品の 製造・販売</p>

GREEN × EXPOの価値を共創／発信する協賛

▼開催意義を展開するテーマ館



▼ナイトショーや夜間演出での価値発信



▼博覧会テーマに沿ったフォーラム



▼魅力発信に直結する修景演出



▼次世代につながる学習プログラム・市民参加



催事参加（募集中（1月30日締め切り））

「多様な文化と価値観の共有」、
「賑わいの創出と交流の促進」、
「地域や国際社会への貢献」など
多様な主体が持つ個性や経験を活
かしながら、来場者や参加者が感動
を得られるような催事を広く募
集します。

○ 催事プログラムの内容

団体・企業・NPO・NGOなどの団体が自主的に企画を立て、主催者として開催する催事プログラムを募集します。プログラムの実施運営にあたっては警備など含め参加者自ら責任を持って行ってください。

○ 参加形態／参加ジャンル

伝統行事・祭り・伝統芸能の披露・伝統工芸の体験物産展・観光プロモーション・音楽・演劇・アート・スポーツ・シンポジウム・ワークショップ・パフォーマンス・ショー・講演会・フォーラム・コンテスト・コンクールなど

募集スケジュール



※ 一次募集での応募状況を踏まえ、二次募集の実施を検討します。
二次募集のスケジュールは別途ホームページ上にてお知らせします。

●市民参加（共創）プログラム

GREEN×EXPO 2027の世界観を共に創り上げるための参加型の取り組みとして、市民参加（共創）プログラムを実施いたします。地球や環境との関わり方について考えるきっかけとなるようなプログラム展開・空間づくりを目指し、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミーをはじめとしたテーマに関するプログラムを市民の皆様や団体、企業、学校等から公募するものです。

日ごろから環境に関わる活動に取り組まれている方はもちろん、GREEN×EXPO 2027の機会にあわせて新しいアイデアを実現したい方まで、市民の皆さまもなたでもご参画いただけます。



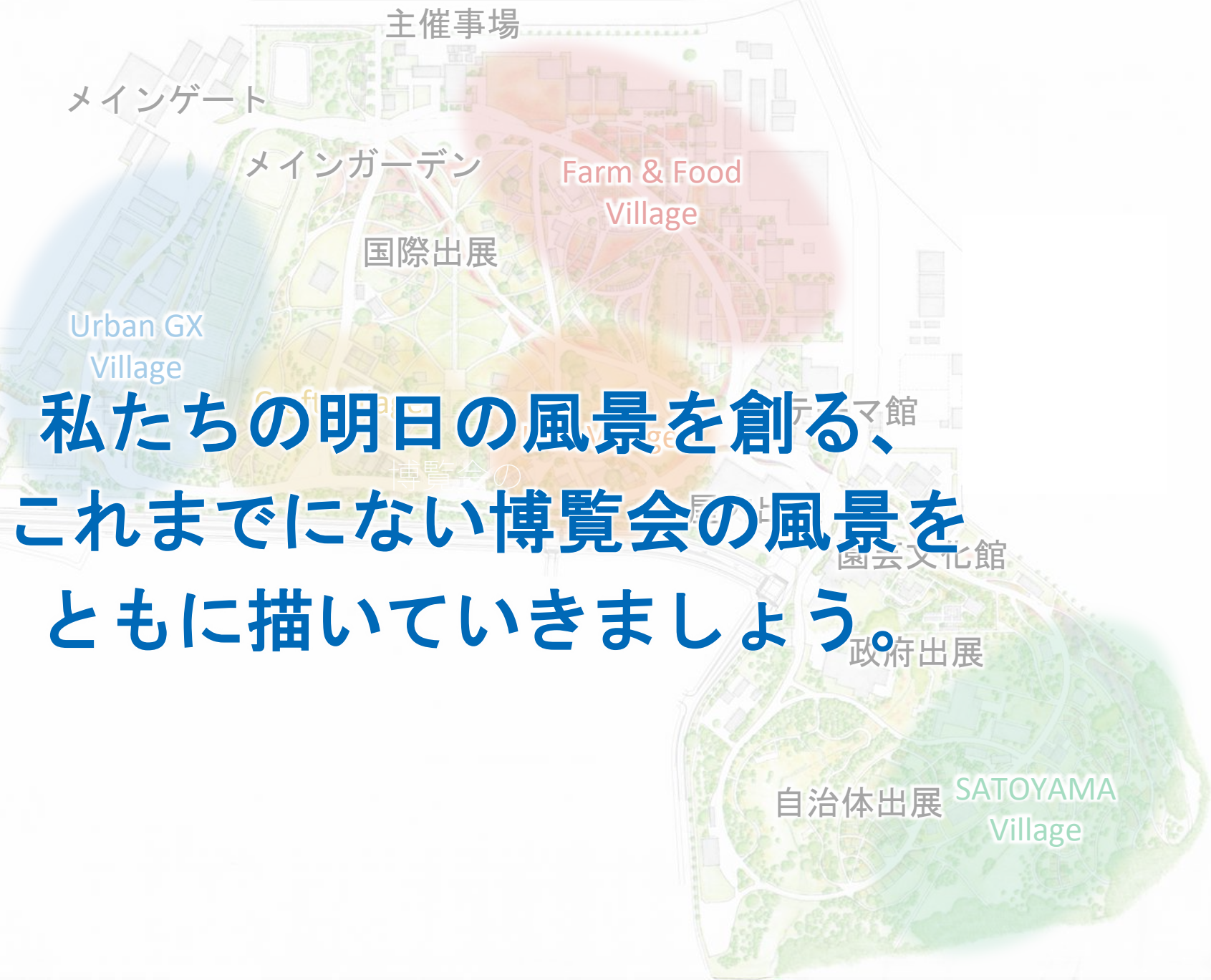
【想定プログラム】

市民（団体・企業・学校等含む）が実施主体となるプログラムを公募

【実施場所】 SATOYAMA Villageに設置予定の屋内外の拠点を中心に展開

【募集予定】 2026年春頃予定

※本イラストはイメージ図であり、現況とは異なる場合があります



**私たちの明日の風景を創る、
これまでにない博覧会の風景を
ともに描いていきましょう。**

